

❁ 火 災 統 計

昭和39年				昭和40年												
月別	件数	損害額 千円	焼損 建物 m <sup>2</sup>	山林 a	合計 件数	合計 損害額 千円	建物		山林		船舶車輛		その他		焼損 建物 m <sup>2</sup>	面積
							件数	損害額 千円	件数	損害額 千円	件数	損害額 千円	件数	損害額 千円		
1月	62	17,587	2,836	135	81	33,385	58	30,840	16	2,190	4	320	3	35	3,506	502
2月	60	20,616	2,575	2,667	77	67,035	36	58,087	40	8,923	1	25			3,700	4,345
3月	88	17,922	2,086	4,426	102	109,282	37	76,237	63	33,011	2	34			5,861	6,791
4月	29	14,352	1,295	340	50	27,047	23	9,237	26	17,809			1	1	2,294	4,364
5月	42	44,638	3,705	50	38	37,297	30	36,825	6	452	2	20			3,402	556
6月	31	23,682	2,769		28	23,954	18	23,637	1	5	5	272	4	40	3,131	20
7月	52	56,819	5,038	11	33	4,452	29	3,218			2	1,233	2	1	437	
8月	49	30,698	2,605	754	38	11,577	27	11,274	2	115	4	70	5	118	1,271	115
9月	38	13,276	1,660		35	51,272	25	40,494	4	1,434	3	9,337	2	6	2,150	325
10月	40	1,922,877	26,869	127	45	38,086	34	37,200	4	117	3	584	4	185	2,870	3,054
11月	46	66,832	5,439	17												
12月	55	54,501	4,505	6												
計	592	2,274,800	61,382	6,533	527	403,387	318	327,050	162	64,055	26	11,895	21	386	28,622	20,072

処分された家畜や焼却(埋却)された汚染物品については一定の基準に

# 歳末たすけあい

何となくあわただしかった昭和四〇年も、余すところ僅かになりました。毎年のことながら、歳末はお互に何かと忙しく、また迫りくる冬のきびしさ、ことの外、身に感じられる時期です。私達は、誰でも常に、よりよい生活を望み、少なくとも人なみの生活はしたいと願うものです。しかし、一般には、人なみの生活どころか、その日の生活にも困っておられる人々の少なくないのが、昨今の現状です。

生活保護を受けておられる人だけでも、全国で約一六〇万人、本県においても約五万五千人の多きにのぼります。このほか、家族の誰かが病気になるか、思いもよらない事故がおこれば、たちまち、明日の生活にも困るような人々、さらには、養護施設で恵まれない環境のもとに、生活しておられる老人や幼い子供たち。これらの人々は、私たちが味わう日常生活とは異なる、きびしい生活と戦いながらも、少しでも自分たちの生活を向上させようと、一生懸命努力に努力を重ねてこられたのであります。しかし、不幸にして、いまだその努力に報われることもなく、貧しさと不遇

よって損失補償がおこなわれます。

(畜産課)

な生活を、送っておられるのではないかと考えられます。

このような人々の心中を考えると、社会福祉事業に携わる関係者はもとより、地域住民の人々が、互に相携えて、これらの人々の自立更生と生活向上のため、特に、たすけあう必要が痛感される場所があります。

「歳末たすけあい運動」は「しあわせを高める運動」の一環であって、地域住

## 年末年始の新生活運動

今年も、あちこちの商店街では、クリスマスセール、歳末大売り出しと、年末にかけての商戦は最高の盛りあがりを見せています。また師走の声を聞くと、忘年会、クリスマスパーティー等、宴会は多くなり、つい生活もみだれがちになります。このように、年末から年始にかけてのあわただしい生活を、楽しく、計画的に過ごそうと、熊本県新生活運動協議会では、県公民館連合会、県貯蓄推進委員会、青年団、婦人会等の団体と協力して、年末年始の新生活運動を提唱し、県民の皆様

民の自発的な運動として始まったものですが、年々活発な運動が、全国各地で展開されております。

最近、経済事情の変容による地域格差がますます拡大し、出稼家庭の増加など都市、農村を問わず、私たちの身のまわりには大きな変化がおこっています。

私達は、このような地域の変動をみきわめ、まわりの人たちの生活の実情についてもよく知りあうと共に、寒さを迎えるにあたって、たすけあいの心を呼びおこしたいと願わずにはいられません。これらの生活困窮者や被災地の人たちの身となり、みんなそろって明るいお正月を迎えるよう、暖かい思いやりとたすけあいの活動を、国民運動として、一二月

ご協力を呼びかけています。

このころでひとつ心のひもを引締めて、新しい生活プランを立ててみましょう。

### 一、無駄な贈答はぶいて貯蓄

年末年始には、平素色々とお世話になった、知人、上役、親せき等にお歳暮やお年玉といった贈物をする習慣が根強く残っています。また、ただ見栄にやうやりとりされる、無駄な贈答も少なくありません。無駄をなくして、明日の生活をよりよくするために少しでも貯蓄にまわしましょう。

### 二、宴会よりも家庭でだんらん

忘年会、クリスマスパーティー、新年宴会等が盛んに開かれます。しかし宴会はほどほどにして、家族そろって、楽しい家庭のだんらんを考え、実行したら更に明るい家庭がつくりだされるものです。

### 三、国旗をかかてゆかしい正月

軒なみに、国旗をかかげ、すがすがしい心で新年を迎え、心気一転、今年こそはと年頭の誓いも新たに、家族そろって新年を祝いたいものです。国旗はその国を表現するものです。日本国民としての自覚と、誇りを持つためにも、祝日には必ず国旗をかかけましょう。